

II-5

特集 Skin Rejuvenation

臨床編

当施設における
Skin Rejuvenation 治療について5

朝日律子

クレシアスキンケアクリニック 院長

当院では、女性の加齢性変化による悩み（シミ、くすみ、肝斑、小ジワ、毛穴の目立ち）に対しての skin rejuvenation 治療として、画像診断を基に、レーザーを組み合わせたカスタマイズ治療を行っている。個々の患者により主訴はさまざまであるが、半年～1年で、主訴以外にも肌全体の悩みの改善を得られることで、非常に患者満足度が高い。

本稿では、skin rejuvenation 治療として、当院で行っているカスタマイズ治療について、臨床症例を供覧しながら紹介する。

はじめに

女性が肌の老化に気づくきっかけは、老人性色素斑、くすみや肝斑などの表在性の色素病変が最も多いが、小ジワの出現や毛穴の目立ちを主訴にする例もある。

当院では、老化に伴う諸症状を主訴として来院された患者に対し、皮膚全層の全顔治療である「カスタマイズ治療」（黄聖琥先生提唱）で skin rejuvenation 治療（肌の若返り治療）を行っている。

カスタマイズ治療を継続することで、色素病変の改善だけでなく、肌のハリ、肌理、毛穴の改善など、さまざまな症状の改善を患者自身が実感する。「シミを治したい」といって受診する患者も、潜在的には、「きれいになりたい」

「若々しくなりたい」という主訴があることが多く、カスタマイズ治療を行うことで、皮膚全層の全顔治療による肌全体の若返りが可能になるため、患者満足度が非常に高く、高い継続率を誇る。

カスタマイズ治療とは、

- ① 再現性のある毎回の画像診断に基づく、全顔の皮膚全層（表皮＋真皮）治療
- ② 個々の肌に合わせて、複数機器と、適切な内服薬・外用薬・スキンケアを組み合わせた総合的治療
- ③ 計画通りに、皮膚全層の改善を通して、健康的な肌をもたらす治療

である。

カスタマイズ治療を当院で用いる理由として、

- ① 顔全体に表皮治療と真皮治療を同時に行うことで、総合的に肌全体のさまざまな老化の治療が可能なおこと
- ② 初診時の診断のみで治療を継続すると、効果が想定より弱い場合や、肝斑の悪化や色素脱失などの副作用が生じる症例があるのに対し、画像で都度診断しながら治療をすすめることで、肌やメラノサイトへの無理な負担が少なく、副作用を未然に防ぎ、より効果を高めることができること
- ③ 肌状態、患者によって、治療内容や治療の順序をカスタマイズできることで、早く、効果的な治療が可能なおこと

が挙げられる。

1種類の治療のみを行う場合に比べて、毎回、画像診断を基にした診察の結果、治療メニューが変わるため、

- ① 1回にかかる治療時間が患者により異なる
- ② 治療機器が他患者と重複することがあり、機器の移動が必要な場合がある
- ③ 予約枠と治療部屋の確保に工夫が必要である

といったデメリットもあるが、上記メリットに加え、患者側も、早期に効果を実感するだけでなく、毎回の客観的データがあることで安心して治療を継続することができる。このため、画像診断を基にしたカスタマイズ治療は、信頼できる美容皮膚医療として当院では必要不可欠な工程である。

カスタマイズ治療の実際

使用する機器・薬剤

当院でカスタマイズ治療に用いているデバイス・治療・薬剤について図1に示す。同一条件で顔の画像を詳細に撮影することのできる画像診断機が必須となる。

治療デバイスはクリニックによって異なるが、大きく分けて以下の4つの種類がある。

- ① 表皮の異常ケラチノサイトを消失させる治療（老人性色素斑治療に用いられるピコ秒レーザーやQスイッチレーザーなど）
 - ② 表皮に溜まったメラニン沈着を減少させる治療（ピコ秒レーザートーニングやQスイッチYAGレーザートーニングなど）
- ※ピコ秒レーザー（1064nm）によるトーニング治療は、老化した真皮を組織学的に再構築させることが示されているが¹⁾、メラノソームの破壊効果もあるため、②に分類する
- ③ 真皮コラーゲンやエラスチンの増生・再構築により、シワ・紋理・毛穴を改善する治療（ロングパルスレーザー、ピコレーザーフラクショナル、non-ablative フラクショナルレーザーなど）
 - ④ その他、経皮導入機器（イオン導入やエレクトロポレーションなど）

カスタマイズ治療では、同日に、①～④のなかから、肌質や症例に合わせて、数種類を組み合わせることで、皮膚の表皮と真皮、つまり皮膚全層を治療する。組み合わせることにより、機器の相乗効果が生じ効果が高まる。

表皮と真皮はサイトカインを介し相互に影響をうけるた